



超高速インターネット衛星を用いた災害医療支援活動に
おける利用実証実験に関する協定

協定の概要

平成25年1月30日

日本医師会常任理事 石井正三

JAXA・日医 協定締結までの経緯

東日本大震災(平成23年3月11日)

JAXA

岩手県庁と釜石市や大船渡市を結ぶ通信インフラが途絶し、復旧活動に支障を来たしていた被災地に対し、超高速インターネット衛星「きずな」により衛星通信回線を提供する支援活動を行った。

日本医師会

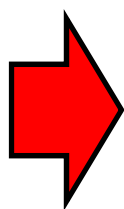
被災県医師会とのTV会議、JMAT(日本医師会災害医療チーム)の派遣、大量の医薬品の輸送などの活動を通して、被災地の医師会やJMAT等との情報共有が重要であることを改めて認識。

- 災害医療支援活動では、被災地での傷病の発生動向、患者・住民の状態や避難所等の状況などを把握することが必要である。
- 今後発生が懸念される南海トラフ巨大地震や首都直下地震は、東日本大震災以上の広域かつ甚大な被害が想定されている。
- 次の災害では、インターネットのさらなる活用が見込まれる一方、被災により通常の通信環境が機能停止に陥ることも予想される。

昨年7月26日、日本医師会は、JAXAと連携し、超高速インターネット衛星「きずな」による災害時における非常時通信デモンストレーションとして、TV会議やカルテ・避難所情報の交換など情報共有を実施した。

災害時の非常時通信デモンストレーション

- 日時:平成24年7月26日(木)
- 場所:日本医師会館 小講堂・ホール
- 参加者
 - JAXA
 - 日本医師会、北海道医師会、埼玉県医師会
- 2本のシナリオ
 - 札幌市大地震
 - 首都直下地震－日本医師会館機能停止
- TV会議、クラウド・コンピューティング



JAXA及び日本医師会は、この結果を踏まえ、超高速インターネット衛星による災害時の情報共有手段の確立を目指すため、さらなる実証実験を行うこととし、協定締結に至った。

超高速インターネット衛星を用いた災
害医療支援活動に
おける利用実証実験に関する協定

< 概要 >

超高速インターネット衛星を用いた災害医療支援活動に
おける利用実証実験に関する協定

< 概要 >

■ 目的

- 大規模災害発生時の災害対策における「きずな」の活用方法を検討し、災害医療支援活動への適用に関する実験を共同で実施すること。

■ 業務の分担

- 日本医師会
 - 災害発生時のTV会議システム、データベース及びクラウド型電子カルテ等を用いた情報共有手段の活用方法の検討、実験の計画立案、関連作業の実施、実験の評価及びとりまとめ
- JAXA
 - 日本医師会による計画立案、実験の評価及びとりまとめの支援
 - 「きずな」の運用。地球局機材の貸与、設置、運用

超高速インターネット衛星を用いた災害医療支援活動に
おける利用実証実験に関する協定

< 概要 >

■ 報告書の作成

- 実証実験で得られた成果について共同で報告書を作成する。

■ 知的財産権の帰属

- 特許等の対象になる知的財産権が発生した場合は、両者において、その帰属及び特許等の出願の要否、第三者利用許諾の条件等について協議する。

■ 成果の利用

- 両者は、自己の業務で非営利かつ平和の目的の場合、協定により得られた成果を無償利用できる。

超高速インターネット衛星を用いた災害医療支援活動に
おける利用実証実験に関する協定

< 概要 >

■ 秘密保持

- JAXAは、診療録等の情報につき、協定終了後も秘密保持義務を負う(ただし、実証実験では、実際の患者データを使用することは想定していない)。

■ 経費の負担

- 両者は、自らの予算の範囲内において自ら負担する。

■ 有効期間

- 協定の締結日(本日)から平成26年3月31日まで
(1年間の自動延長)